

も変化がない。水量はぐんぐん減って、瀬頭近しを思わせるばかりである。やがて沢筋に、錆びたドラムカンや石油缶が見られるようになってきた。森林作業の名残りのようである。これで終わりかと思いつつ歩を進める。やがて2つの小滝。三ノ沢にわずかに花を添えている。まもなく五来山林道終点に出て遡行終了。林道より上部では、伐採作業が進んでいた。

(記)

[タイム] 三ノ沢出合(7:55)→三ノ沢終了(8:50)

### 宮川支流四ノ沢(仮称)右俣

1989年8月12日



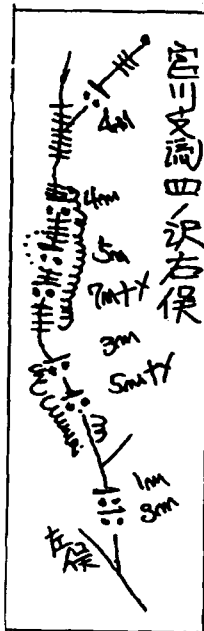
9:15四ノ沢(仮称)右俣の下降開始。樹林帯の中を5分程下

ると、瀬頭の湧水地点に出る。そのあと4mの滝をクライミングダウンすると、左俣本流に出る。ここから明るい花崗岩の沢となり、急に視界が開ける感じである。

やがて急なナメと滝が連続して、急激に高度を落す。まずは4m。クライミングダウンする。よくみがかれているが、適当にスタンスがあって下ることができた。ところが、その下の5mは下れない。右岸を捲く。ただ、登ることならできそうな感じである。すぐまた7m。よくみがかれた岩場の小さなスタンスをひろってクライミングダウンする。ここまで全体が一つの滝といってもよい所である。

ホッと一息つくまもなく、また滝が続く。3m滝は左岸をクライミングダウン。ソシテ5mナメ滝。ここも下れない傾斜ではないが、よくみがかれているので、慎重にスタンスをひろって下る。下りきったところで、ようやく沢の傾斜が緩やかとなり、まもなく左俣との出合に到着する。登りに使うと快適な沢登りになったろうにと、ちょっぴり悔やまれる思いがした。

(



[タイム] 四ノ沢右俣下降開始(9:15)→左俣出合(9:50)→山本不動尊(10:25)